

# ActiveActivity 対話の架橋 第1話 市長との対話

R5.7.4 (火)



メンバー  
文化振興課 河西  
市民協働課 藤原  
課税課 小笠原  
行政総務課 東

# 01

## 目的

若手職員が市長との対話を通して、市の方針や市長の思いを聞くことで、業務に対する理解を深める。

# 対話の内容をご紹介します



## Q1 保健師に求めるものは？

健康づくり課 大村主任保健師

保健師さんの講演・トークが上手である。  
保健師さんの持っている、学んできたスキルだけではない。  
励まし方がその気にさせている。ネウボラ\*の寄り添う支援、  
安心させる人としてのケアもありがたい。

### \*島田市版ネウボラとは

フィンランドの母子保健システムを参考に、生まれてくるすべての子どもと家庭に担当保健師を付け、顔の見える関係作りに取り組む切れ目のない子育て支援



# 対話の内容をご紹介します



## Q2 20～30代に求めるものは？

水道課 廣澤書記

- ①全体知の必要性
- ②民間と一緒に仕事ができるスピード感を持つこと
- ③柔軟な発想ができる人間であること
- ④大局的な判断をすること
- ⑤利用者目線であること
- ⑥コスト意識を持つこと
- ⑦全体最適で判断すること



# 対話の内容をご紹介します



## Q3 若者にどんな経験をさせたいか？

会計課 芦沢事務員

人と関わること。  
役所の先輩で目標の人（メンター）を見つけて、  
近づけるよう追いつけるよう頑張る。



# 参加者の気づき



最後に市長が話された、若者に望むこと：「若者の、心強くあれ」  
どんなことがあっても負けない心のしなやかさ「レジリエンス」の話が印象に残りました。  
大人になってから心のしなやかさを鍛えることは難しいと思うので、  
幼児期～青年期を通していろいろな経験から学んでいくのが改めて大切だなと感じました。



「目の前の仕事が島田の未来を作る」  
日々の仕事がルーティンになりがちですが、市長がお話しされたこの言葉のとおり、  
与えられた仕事も自ら挑む仕事も全力で取り組んでいき、島田のよりよい未来を築いて  
いきたいです。



市長との対談を機に、たとえ自分に合っていなくても挑戦することが大切だと思いました。  
10個挑戦して、2、3個成功すれば上出来、という助言をいただけたため、  
異動が転職と言われる市役所でも、前向きに様々な業務に努めたいと思います。



次回は、副市長との対話の予定です。  
お楽しみに！